

ぼの御玄つらひ、大床子たて、御帳のまへの玄、こまいぬなど、つねの事ながらめとまりたり。

〔榮花物語初花〕かゝる程に九月五年寛弘にもなりぬ、略十日ほのくとするに、白御帳にうつら

せ給ひ、その御玄つらひかはる、殿道長藤原よりははじめたてまつり、君達四位五位たちさはぎて、御

几帳のかたびらかけかへ、御たゝみなどもてさはぎまいる程、いとさはがし。

〔類聚雜要抄二調度〕立調度例雖不注藤中納言殿指圖云々顯頼、

保延二年七月十六日壬午、播摩守家成朝臣嫁娶美濃少將忠雅、庇調度如常、但鏡臺二入帷二帖用

之、修理大夫重親立之、今案不可爲例、但二帖鏡臺、一帖ハ如常用、鏡臺、今一帖ハ昔調、

疊茵等、帳之東間ニ被用之、室禮不可爲例、永久六年正月廿六日中宮立后之時、此室禮、立后、

ナ置蓋天、藥宮下階被置之、代御案不可爲例、但案、若代、母屋茵前之三尺几帳并帳、戊亥角之五尺屏

風等不被立之、爲例不可不被用壁代并屏風等、九尺被用之、不可爲例、普通ニ

〔朔旦冬至部類記〕朝隆卿記云、久安元年十一月一日、略中、南殿御裝束儀、昨日、裝束使令掃部女官等

懸御帳帷壁代等、略註、御帳帷卷三面、其内敷兩面、疊三枚、東西妻簷差縁、掃部寮所造、帳

〔兵範記〕仁安三年十一月廿三日庚辰、早旦參大極殿、大夫史并行事官皆參奉仕節會御裝束、略中

高御座東西第四間立御帳、悠紀在東、主基在西、略

悠紀主基御帳懸白帷、東西南三面卷上之、悠紀小葵文、綾二色、紐如常、施繪、寛治例也、主基白唐鏡懸

角如常、件御帳、悠紀主基以板敷續、其上塗石灰、新造高欄塗朱漆、悠紀壇、東北有登階、敷唐纈纈、壇敷

青打絹、押銀、鐔丸文帳臺面敷滿唐錦、悠紀赤地唐錦、弘七尺、長一丈餘、故殿御物也、申請

〔山槐記〕治承四年二月廿一日癸卯、今日有讓位、倉高事、略中、母屋東第四間、南階也立御帳、渡物内、有濱

三枚、南北妻敷之、南殿柱二本懸、角、北殿柱二本懸、鏡、四面懸、東南西北上之、其口三、

几帳三本立、口御帳事、口口勘日時、又無立柱之次、第内匠寮立、兼日令藤人仰應、催也、其前立獅子形、